

22. 「おおいた冠地どり」専用飼料の開発に向けた取り組み

農林水産研究指導センター畜産研究部

○志村英明・阿南加治男

【はじめに】

平成19年度に「おおいた冠地どり」を作出し平成20年度には「The おおいたブランド」に認定され、アクションプラン2011で23年度の出荷羽数は7万5千羽を目標にしている。給与飼料は市販ブロイラー飼料を基準としているが生産性が高く美味しく、栄養価や肉質鮮度保持等の機能性を付与できる専用飼料の開発が望まれている。平成21、22年度にかけ「カボス搾汁残渣」と「飼料用米」の給与試験を行い成果が得られたので報告する。

【21, 22年度試験】

試験内容 供試鶏：「おおいた冠地どり」、給与日齢：21～90日齢

供試飼料：スーパーブロF（CP18.0%以上、ME3200kcal/kg以上）

（飼料米試験）：給与飼料に供試飼料の10%、20%、30%を外付けで給与した。

（カボス試験）：給与飼料にカボス搾汁残渣フリーズドライ粉末（以下「KFD」いう。）を0.2、0.5、1、3%、サイレージにしたもの（以下「KS」という。）を1、2.5、5%で外付けで添加した。

試験結果および考察

（飼料米試験）

- ・増体成績は、10%区は対照区よりも雌雄平均で約10%増え飼料要求率は同等であった。
- ・ビタミンE含有量は、10%区で約17%、20%区で約50%増加した。
- ・食味評価試験は、10%、20%添加した区と対照区で有意差は無かった。

（カボス試験）

- ・KFD給与区は、対照区と比べKFD1%添加までは体重や飼料要求率は同等であった。
- ・KS給与区は、対照区と比べKS2.5%添加までは体重や飼料要求率は同等であった。
- ・KS1%給与区は、対照区と比べ6日目の胸肉のドリップロス危険率5%水準で有意に低かった。
- ・カボス搾汁残渣の飼料添加は、くさみが少なく食味成績が良い傾向がみられ、カルノシンやアンセリンといった疲労回復効果のある成分が高くなる傾向がみられた。

（考察）

カボス搾汁残渣の飼料添加は、食味が良く、ドリップロスは小さくなり、カルノシンやアンセリンといった疲労回復効果のある成分が高くなる傾向がみられた。平成23年度より飼料米やカボスを主体とし添加した専用飼料の開発を行っており、消費者ニーズに合った地鶏肉生産と更なるブランド化の取り組みを進めていきたい。